

注) この RCT は日本東洋医学会 EBM 委員会がその質を保証したものではありません

2. 癌 (癌の術後、抗癌剤の不特定な副作用)

文献

大森健. 胃癌手術後の腸管運動機能低下に対する大建中湯の有用性に関する前向き無作為化臨床研究. *Progress in Medicine* 2012; 32: 614-5. [MOL](#), [MOL-Lib](#)

1. 目的

胃癌、胃全摘後の腸管運動機能低下に対する大建中湯の有効性と安全性の評価

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT)

3. セッティング

病院外科 1 施設

4. 参加者

胃癌のため胃全摘 (Roux-en Y 法) 根治度 A/B を受けた患者 100 名 年齢 44-80 歳

5. 介入

Arm 1: 大建中湯 (メーカー不明) 7.5 g/日 3 ヶ月間投与 51 名

Arm 2: 微温湯 20 ml 3 ヶ月間投与 49 名

6. 主なアウトカム評価項目

術後合併症 (術後イレウス) の発症頻度、消化器症状 QOL (GSRS)、便通、腸管内ガス

7. 主な結果

脱落症例 15 名を除く 85 名で評価した。腸閉塞発症は Arm 1 で 1 名、Arm 2 で 3 名で有意差は無かった。術後 1, 3 ヶ月で Arm 1 では Arm 2 よりも便秘が改善したがそれ以外の消化器症状 QOL (GSRS) は両群間で有意差は認められなかった。入院中の排便回数は Arm 1 (1.1±0.6 回) は Arm 2 (0.7±0.4 回) に比べ有意に増加した ($P<0.05$)。便の性状については Arm 1 で Arm 2 に比べ有意に軟であった。腸管ガスは Arm 2 に比べ Arm 1 で術後 1 週間、1 ヶ月、3 ヶ月いずれも有意に減少した。

8. 結論

大建中湯は、胃全摘術後患者における腸管運動の早期改善に寄与し、術後愁訴の軽減に有効である。

9. 漢方的考察

なし

10. 論文中の安全性評価

有害事象なし

11. Abstractor のコメント

本論文は、胃癌、胃全摘後の腸管運動機能低下に対する大建中湯の有効性と安全性を評価したランダム化比較臨床試験である。大建中湯は術後の腸管運動機能低下の早期改善に有効であることが示唆された。排便回数の増加など自覚症状のみでなく客観的指標である大腸ガス領域面積の低下は大建中湯投与群において術後 1 週間で認められた。

12. Abstractor and date

岡部哲郎 2013.12.31